

こま が たに い せき ちょう さ  
駒ヶ谷遺跡の調査



1997年6月7・8日

主催：(財)大阪府文化財調査研究センター 後援：羽曳野市・羽曳野市教育委員会





▲写真1 調査地近景 (1C・2C付近)



▲写真2 竪穴住居跡 (古墳時代後期)



▲写真3 並んで建つ掘立柱建物跡 (古墳時代後期～飛鳥時代)



▲写真4 「大林宅」と書かれた土器 (平安時代)

## 遺跡の位置

## いせきのいち

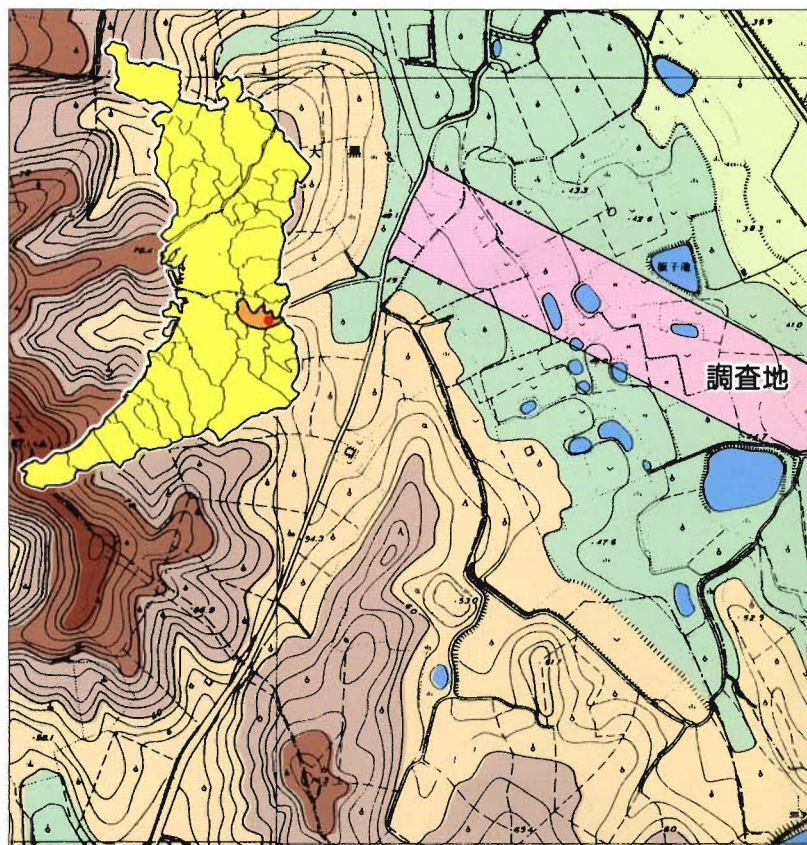
こまがたにいせき 駒ヶ谷遺跡は大阪府羽曳野市飛鳥・大黒に所在して

います。遺跡は飛鳥川の西側の丘陵上に立地しており、これまでの調査で弥生時代から中世までの生活の痕跡が確認されています。また、昭和の初めには巨大な塔心礎が掘り出されたことから周辺に古代寺院の存在が推定されており、さらに遺跡のすぐ近くには古代の国道である竹内街道が通っており、この遺跡周辺は古代の中心的な地域の一つであったといえます。

## 調査の概要

## ちょうさのがいよう

今回の発掘調査は当地に計画された南阪奈道路の建設に先立って昨年度から行っています。これまでに調査を終了した調査区(写真1)では古い時期のものとしては古墳時代後期の竪穴住居跡(写真2)、新しい時期のものとしては中世の掘立柱建物跡、堀や井戸などが見つかっています。とくに、駒ヶ谷遺跡では古代の遺構が最も多く見つかっています。古代の遺構はその多くが掘立柱建物跡ですが(写真3)、倉と考えられる2×2間の総柱建物が多いのが特徴です(写真5)。建物の中には並んで建てられたものもありますが、方向がまったく異なるものもあり、すべてが同時に建っていたのではなく、飛鳥時代から平安時代の初めころ





までの間に何度か建て替えが行われたようです。また、  
 この時期の遺構として注目されるものとして建物群の  
 南側の谷筋に掘られた井戸424があり（写真6）、この  
 井戸のすぐ南の谷からは、「古厨」・「大林宅」と書  
 かれた土器も出土しています（写真4）。

**井戸424の調査** **いど424のちょうさ**

井戸424は井戸枠を持たない素掘りの井戸ですが、  
 直径は5m近いもので、深さ2mの地点からは直径お  
 よそ1.3mとなり、深さは8.5mを測ります。

この井戸では上層からは3ヶ所に小さな穴を開けた  
 土師器杯、中層からは一気に捨てられた土器がかたま  
 って出土しており、その中には非常に多く  
 の製塩土器（塩の運搬用容器：写真11）が含まれてい  
 るほか、文字を書いた土器（写真14）やミニチュアの  
 高杯（写真15）なども出土しています。下層からは全  
 国的に見ても非常に珍しい奈良三彩の小壺（写真9）  
 や頸部に紐を巻いて釣瓶として使われていた壺（写真  
 12）や甕が30点以上も出土しているほか、漆塗りの柄  
 杓や曲物などの木製品、凝灰岩切石（写真10）、瓦片  
 も出土しています。また、これらの遺物に混じって桃  
 の種も多く出土しており、井戸に関連する祭祀が行わ  
 れていた可能性も考えられます。



▲写真5 倉庫と考えられる建物（奈良時代？）



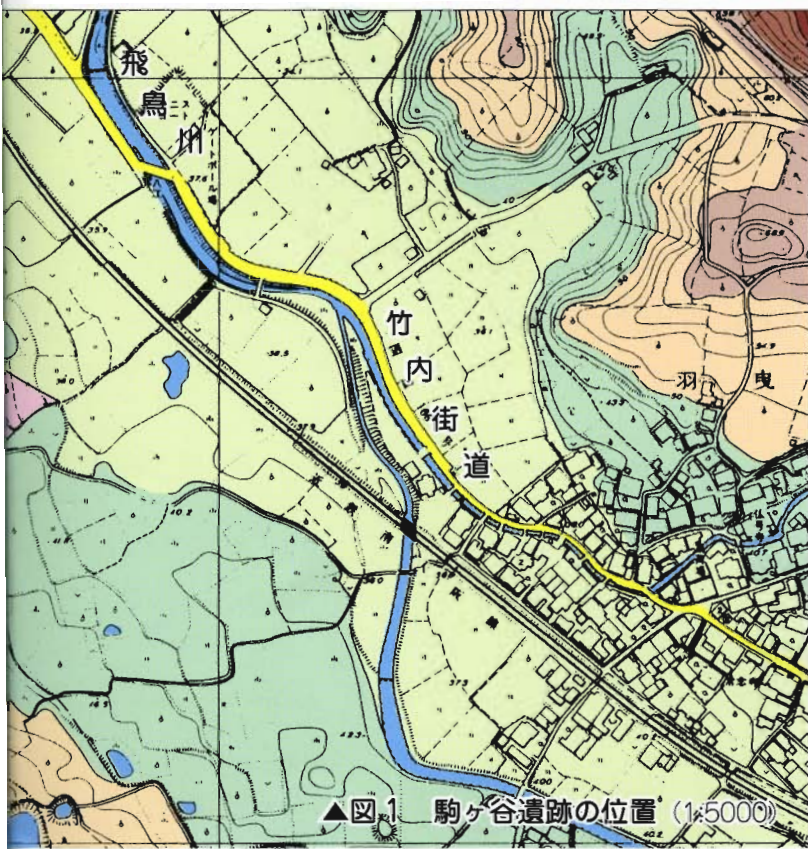
▲写真6 井戸424（奈良時代～平安時代初頭）



▲写真7 井戸424中層製塩土器出土状況（奈良時代～平安時代初頭）



▲写真8 井戸424の下層から出土した土器（奈良時代）



▲図1 駒ヶ谷遺跡の位置（1:5000）



**奈良三彩の小壺** **ならさんさいのこつぼ**

ならさんさい ならじだい どうさんさい つく  
 奈良三彩は奈良時代に唐三彩をまねて作られた  
 しょうそういん とうじ  
 もので、正倉院にもおさめられています。当時の  
 どき なか こうきゅうりん いっぱん しゅうらく しゅつど  
 土器の中では高級品であり、一般の集落から出土  
 することはほとんどありません。  
 こつぼ みやこ じいん しゅつど  
 とくに小壺は都や寺院からも出土  
 さいし がが いせき  
 しますが、祭祀に関わる遺跡から  
 壺 しょう しょうど  
 も多く出土しています。



▲写真12 釣瓶に使われた長頸壺 (奈良時代)



▲写真9 奈良三彩の小壺 (奈良時代)



▲写真13 壺の頸に巻かれたひも (奈良時代)



▲写真10 焼けた凝灰岩の切石 (奈良時代)



▲写真14 字が書かれた土器 (奈良時代～平安時代初頭)



▲写真15 ミニチュアの高杯 (奈良時代)



▲写真11 塩を運んだ製塩土器 (奈良時代)

**まとめ**

こんがい ちょうき こだい たてもぐん かんれん ならさんさい こつぼ  
 今回の調査では古代の建物群に関連して奈良三彩の小壺や  
 ふるのくりや? か どき しゅつど いぶつ  
 「古厨」と書かれた土器などが出土しました。これらの遺物  
 いせき いっぱん しゅうらく かんが こだい やく  
 はこの遺跡が一般の集落ではなく、官衙とよばれる古代の役  
 しょ かんれん しせつ かのうせい しき  
 所に関連する施設であった可能性を示唆するものといえます。